

とわてい 塔王

チエンマイ県でのインフラ支援を開始

当協会では昨年度、日タイ修好130周年記念事業の継続として電気のない村の通学路への太陽電池式街灯設置や、協会設立20周年記念事業の継続として手縫いコースターを始めとした一村一品運動の広がりを取り組んできました。また、引き続きタイ王国北部地域でのニーズ調査や現地調査を行っており、緊急支援事業としてチエンマイ県にある幼小中校での飲料水用設備工事を支援しました。さらに現在は同県その他幼小中校への保健室建設支援の計画も検討しています。

1 チエンマイ県メカプー幼小中校 飲料水用設備の工事を緊急支援!

当協会では2019年6月に現地会員の堀田様のご協力により、支援ニーズの現地調査を実施しました。その際、チエンマイ県メカプー幼小中校のワサン校長より、子ども達が利用する飲料水用設備が老朽化のため使用できなくなり困っているとの訴えがありました。当協会ではその声を受け、9月に緊急案件としてメカプー幼小中校の飲料水用設備工事の支援を決定しました。

チエンマイ県メカプー幼小中校は山中に位置し、山岳民族の子ども達154名が通っています。



▲給水小屋の老朽化した水ろ過装置



▲水飲み場



▲水道配管の修復工事の様子



▲寄贈した水ろ過装置

す。飲料水は給水小屋から約100m離れた水飲み場までを水道配管でつなぎ、タンクに貯水して供給していましたが、2年前より給水小屋の水ろ過装置、貯水タンク、水道配管等の設備が老朽化し、使用不可となっていました。一方で教育省の予算は政権方針により3年前から減額が続き、設備の修理や交換は費用の面で難しい状況でした。そのため飲み水は子ども達が自宅から持参するか、場合によっては我慢することもあり、健康上も問題となっていました。今回の緊急支援では水道配管

の修復工事費用を支援したほか、水ろ過装置、2000ℓの貯水タンク2基、飲料水をタンクへ揚水するためのポンプを寄贈しました。支援金は30,000バーツ、日本円にして約104,000円です。飲料水が安定供給されることで、子ども達が楽しく健康に学校生活を送る手助けになればと思います。また、当協会はこれまでランプーン県の山岳地域にて水道新設工事や街灯設置などのインフラ整備事業に取り組んできましたが、今回のメカプー幼小中校への支援をきっかけに、

チエンマイ県にも再び草の根支援活動を根付かせることができればと期待しています。



▲寄贈した貯水用タンク



▲(左より) 現地会員の堀田様、ワサン校長、工事担当教員2名

2 チェンマイ県メートー幼小中校保健室の建設支援を検討中!



▲メートー幼小中校の子ども達

当協会では現地会員の堀田様による調査をもとに、2020年度の箱もの支援としてチェンマイ県メートー幼小中校への保健室建設を検討しています。

メートー幼小中校はチェンマイ県の山中にある山岳民族学校で、約200名の生徒が在籍しています。山深く毎日の通学が困難なため、生徒の約半数は敷地内の寮に住んでおり、中には土日さえ帰宅できない生徒もいます。自宅に帰れず寮生活を送る生徒が多数いるため、風邪をひいたりお腹を壊したりなど体調を崩す生徒や、虫や蛇にかまれたりするアクシデントも発生しますが、メートー幼小中校には手当てをするための保健室がありません。看病は職員室の椅子や寮内の二段ベッドで対応し

ているそうです。寮は敷地内の山の斜面に建てられており、寒さ対策で窓の無い作りとなっており、近年は環境の変化で徐々に暖かくなり、現在の建物で過ごすことがつらい日もあるようです。寮から校舎までは厳しい傾斜と足場の悪い道が続いて通学も大変とのことで、この子



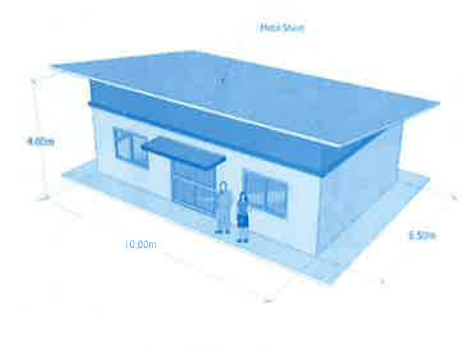
▲子ども達が暮らす学生寮



▲日曜日でも寮で寝起きする子ども達

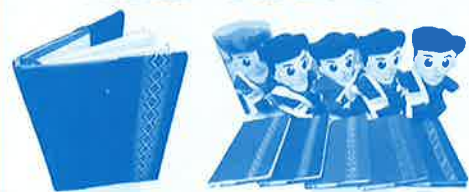
も達の健康維持・促進のためにぜひ保健室を建設したいと考えています。

保健室の建設予定地は学校の臨時駐車場となっているエリアです。2020年度の総会にて承認を受け、順次建設を進めていきます。



▲6.5m x 10mの保健室完成予想図

OTOP(一村一品運動)の広がり



▲カレン族の伝統模様が刺繍されたブックカバー

当協会では昨年、協会設立20周年の記念品として現地中学生による手作りコースターの製作に取り組みました。コースター作りは2018年2月のタイ親善訪問にて視察したパラオ校の生徒の皆さんに依頼し、5枚 x 300セットの計1,500枚を製作して、2019年度の総会終了後に会員の皆さまへ配布させていただきました。協会が協力したコースターの売り上げは生徒たちの進学費用に生かされ、教育支援にも繋がりました。さらにこの活動がきっかけとなり、パラオ校の生徒たちの間ではOTOP(一村一品運動)が広がっていきました。

OTOPとはタイ政府がすすめる地方振興政策の一つで、大分県の政策をモデルにしており、都心部と農村・山岳地帯との経済格差を改善するために

2001年より導入されました。政府は一村につき少なくとも一種類の主要製品を製作することを奨励し、各村で作られた製品の品質を管理・保証して国内外での販売促進業務も支援しています。OTOP製品は手工芸品や服飾品、食品など多岐にわたり、政府公認の高品質な製品として都心部や空港をはじめとしたタイ王国内のあらゆる場所で販売されています。OTOP製品の売り上げは産産が無い農村や山岳地帯の人々の貴重な収入源となっています。

パラオ校の生徒たちはコースター作りを通して技術や創造性が向上し、自らアイディアを出し合ったりバッグや財布、ブックカバーなども作れるようになり、それらの販売も行っているとのことです。山岳地帯の子ども達は両親が貧しいために高等教育を受けられず、早くに結婚し、貧しい生活から抜け出せないことが多いようですが、パラオ校の生徒たちによって広がった一村一品運動がそのような状況を改善する手助けとなり、さらに他の山岳地帯の学校にも広がっていくことを願っています。



▲パラオ校の生徒たち

タイ工業省研修員視察受入

埼玉県はタイ王国工業省と「相互協力に関する覚書」を締結し、双方の中小企業のビジネス環境の構築や経済交流を支援しています。また、この覚書に基づき、埼玉県では毎年、タイ王国工業省の若手職員を研修員として受け入れています。今年も1月23日(木)～1月30日(木)の間、研修員2名の受入が実施されました。

研修の視察先として当協会事務局である武州ガス(株)へ埼玉県より受入依頼があり、1月27日(月)に研修員2名が当社を訪問しました。武州ガス(株)での研修受入は今年で3回目となります。当日は埼玉・タイ王国友好協会の取組みと武州ガスの事業概要を説明し、研修員2名は熱心に聞き入っていました。質疑応答ではガス事業やエネルギー供給に関する質問のほか、再生可能エネルギーや新規事業への取り組みについても質問があり、活発な意見交換が交わされました。

この研修をきっかけに、埼玉県とタイの架け橋となる人材が育ち、双方の交流が更に深まることを期待しています。



▲企業訪問の様子(武州ガス)



▲左から2番目より研修員のカーン・スッカセムさん、サウィトリー・ヒュンワンさん

学生への奨学支援資金授与 第5期支援候補生とのスカイプ面接を実施

当協会では2016年より毎年、高校生および大学生への奨学支援資金の授与を行っています。昨年度は第1期支援生徒2名、第2期支援生徒3名、第3期支援生徒2名、第4期支援生徒2名の計9名へ奨学支援資金を授与しました。今年度も引き続き支援を行うにあたり、2020年2月18日(火)に、第5期支援候補生とスカイプによる面接を実施しました。

今回はチエンマイの山岳地域に位置するメートー幼小中学校の中学3年生1名、同校を卒業した大学1年生1名を候補生としています。メートー幼小中学校はチエンマイの公立700校の中で日本語教育を取り入れている2校のうちの1つで、候補生の2人も日本語を勉強しています。

面接当日、タイ現地では候補生のナムティップ・ソートさんとアンパン・ラウワンさんの他、候補生のご両親やメートー幼小中学校の校長先生、通訳の方、仲介としてご協力いただいた現地会員の堀田様が同席されました。事務局側は原会長、小高事務局員の2名が面接に臨みました。

ナムティップ・ソートさんはメートー幼小中学校の中学3年に在学しており(面接当時)、選択科目で日本語を学んでいるとのことでした。当協会からの奨学支援を受けることができたなら、メーリム・ウィタヤコム中高校の日本語科に入学して日本語を勉強し、ゆくゆくは大学にも進学したいと意気込んでいました。そして将来は日本語教師として山の学校へ戻り、両親の手助けをしたいとのことでした。

アンパン・ラウワンさんはラチャパット・チエンマイ教育大学の日本語科1年に在学しています(面接当時)。メートー幼小中学校の授業で日本語や日本文化に興味を持ち、その後は高校・大学ともに日本語科に進んだとのこと

です。高校時代は学校の文化活動にも積極的に参加し、ラチャパット大学主催の日本語スピーチ大会に毎年参加して日本語力の向上に励んだそうです。現在は学費のために授業の合間を縫ってアルバイトをしているそうですが、当協会の支援を受けることができた際には、学費や日本語の本の購入費用に充て、さらに勉学に励みたいとのことでした。

また、現地より第2期支援生徒3名が大学に合格したとのうれしい報告が届いています。チュタラット・シンゲーオさんはラチャパット大学チエンマイ国際学科に、チャニカン・カーカムさんは同大学のランパーン幼児教育学科に、ナタウット・シンゲーオくんはチエンマイ技術大学の高専機械科にそれぞれ合格したとのことでした。3人は大学でも引き続き勉学に励み、卒業後は村に戻って子ども達の教育や地域の発展に貢献したいと話しているそうです。



▲候補生とスカイプで会話する原会長



▲アンパンさん



▲ナムティップさん



プミポン前国王ご誕生日、ナショナルデー 及び父の日のレセプションの開催

2019年12月5日（於帝国ホテル）、タイ大使館主催のプミポン前国王ご誕生日、ナショナルデー及び父の日のレセプションが開催されました。レセプションには、駐日各国大使はじめ、日本とタイ王国の友好促進する政府、経済団体等の関係者約900名が一堂に会しました。開会にあたり、主催者を代表して新任のシントン・ラーピセートパン駐日大使閣下より歓迎のご挨拶があり、他方、日本側からは、来賓代表の森まさこ法務大臣ほかより、日本とタイの親密な友好関係等についてご祝辞がありました。また、当協会が

らは、衆議院議員土屋品子顧問と事務局が参加し、タイ大使館関係者と親交を深めました。



▲シントン・ラーピセートパン駐日大使閣下(右から4番目)の挨拶※1



▲会場で披露されたタイ民族舞踊※2



▲大使閣下(中央)と土屋品子顧問(左端)等の集合写真※3

埼玉・タイ王国友好協会からのお知らせ

第21回タイ・フェスティバル2020 開催延期について

5月9日(土)～10日(日)に代々木公園イベント広場にて開催を予定していた「第21回タイ・フェスティバル2020」は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、延期が決定しました。延期後の日程や場所については決まり次第タイ・フェスティバル公式HP (www.thaifestival.jp) 及びタイ王国大使館公式HP (site.thaiembassy.jp) にて発表されます。

第22回総会開催

下記の要領で総会を開催します。

駐日タイ王国特命全権大使シントン・ラーピセートパン閣下のご講演を予定していますので、ぜひご出席ください。

日時: 2020年7月14日(火) ▶シントン・ラーピセートパン大使閣下※4
16:00～17:10
総会・講演会
17:20～18:30
懇親会

場所: 川越プリンスホテル
川越市新富町1-22
☎049-227-1111



▲昨年の総会会場の様子

※1～4 写真提供: タイ王国大使館

編集後記

新型コロナウイルスの影響から日常の制約もありますが、引き続き、タイ王国へのご支援は、インフラ整備や人材育成など可能な草の根外交を進めていきたいと思います。(H)

学校を中心とした子ども達も利用する設備の改善により、楽しく安心して勉強ができるようになって欲しいと思えます。(O)

埼玉・タイ王国友好協会ウェブサイト

<http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

・会員増強にお役立て下さい

会 員 募 集

年会費 法人会員 2万円 問い合わせ TEL:049-247-5428
個人会員 2千円 FAX:049-246-2118
(武州ガス(株)内)